

家庭教育通信

Vol.

18

監修：白井市家庭教育講座講師 富澤 裕子

発行元：白井市教育委員会（教育部生涯学習課 492-1111 内 3432）

平成27年3月発行

「家庭教育通信」は、子ども達のすこやかな成長を願い、よりよい家庭教育について、皆で考え行動することを目指して、白井市教育委員会が情報を発信するものです。

「子どものけんか、親は“翻訳者”でスッキリ解決！」

母親の尚子さんが趣味のビーズでストラップを作っていると、子ども部屋の方から言い争う声が聞こえてきました。

「まただ…」とっていると、弟の将君とお姉ちゃんが尚子さんのいる部屋に走ってきました。

弟『お姉ちゃんがたたいた。』

母『またー。何でたたくの？ やめなさい。』

姉『将だって私のことたたいたもん！』

何で私ばかり怒るの！？

ママは将の方が好きなんですよ！』

母『好き嫌いの話じゃないですよ！』

姉『もういい！ダイキライ！！』



お姉ちゃんはそう言うと、弟の背中を叩いて走り出て行きました。

兄弟姉妹に限りませんが、子どものけんかは親にとってはいやなものです。しかし、けんかは人との関わり方ややって良い事と悪い事の区別を身につけ、仲直りを学べるものなのです。

ですから、けんかは子どもにとって必要な体験である、と多くの大人は考えています。

けれど、例えば実際に兄弟姉妹がけんかをしているのを見聞きした時、親は冷静に見守ることができず、言い争いで負けていたり体力で劣っていたりする子をかばってしまいがちです。年上の子や強い子に「やめなさい」と命令したり、「お兄ちゃん（お姉ちゃん）のくせに弱い者いじめをして」と非難侮辱をしたりして、親の怒りをぶつけるのはよくある光景です。年下や弱い子には「いい子だからがまんしてね。」と褒め、「よしよし、お兄ちゃん（お姉ちゃん）は悪いね。」同意同情してなくさめもします。

また、自分の子とその友だちとけんかしている時は、とかくわが子に我慢をさせてしまいがちです。わが子を悪者にするために「ごめんね」と親が代わりに謝り、けんかを治めようとするもあります。

しかし、これは本当の解決になっているのでしょうか。米国の臨床心理学者で親業講座の創始者トマス・ゴードンは、その著書の中で

「二人の人、二つのグループが共存すれば、対立の起こる方が当然である。人は一人一人違い、違った考え方をし、異なった欲求欲望をもつから。」

と言い、更に

「対立が何度起こるかではなく、どうやって解決されるか、こそがあらゆる人間関係でいちばんの決定的要素である。これこそその人間関係がどんなものになるかを決定するうえで、最も重要で決定的なものであると私は考えている。」

とも言っています。読者の皆さんはどのようにお考えでしょうか。

子どものけんかでは、“判官びいき”と言って弱い方に同情したり、“けんか両成敗”で善悪をつけずに両方が悪いとして、両者に罰を与えたり謝らせたりしようとする解決策がよくとられます。このとき、親の役目は子どもたちの上に立つ検察や弁護士になって、子どもの行動を善悪正誤で罰を下したり、一方に加勢したりしているのです。

では、どのようにしたらいいのでしょうか。けんかの時、子どもに限らず人は自分のやり方にこだわり、それを相手に押し付けようとしているのです。つまり、意思の疎通が図れていないのです。何が対立しているのか、お互いの満たされない欲求は何か分かりあえば、解決策は一つではありません。ですから、親は翻訳者になるのです。けんかに至るまでの子どもの気持ちを受け止め、子どもがうまく表現できない気持ちをくみ取ってけんか相手に伝えるのです。けんか言葉ではないふつうの日本語として。

弟『お姉ちゃんがたたいた。』

母『たたかれて、いやだったね。』（弟の気持ちの確認）

姉『だって、将が私の大切なゲームを触ったんだもん！』

母『将が大切なゲームを触ったから怒ったのね。』（姉の気持ちの確認）

姉『そうだよ。鼻をほじった手で触ったら、汚いじゃない。』

母『鼻をほじった手で触られたのが、汚くてとてもいやだったのね。』（姉の気持ちの確認）

『（弟に向かって）鼻をほじった手で触られたのが、とっても大切だからいやだったんだって。』

（姉の気持ちを翻訳する）

弟『汚くないもん。』

母『汚くないの…。』（弟の気持ちの確認）

姉『汚いよ。それに将は、トイレに行った後も手を洗わないんだよ。』

母『トイレの後も…、だからいやなのね。』（姉の気持ちの確認）

姉『そう。』

母『（弟に向かって）おねえちゃんはそのゲームがとっても大切なんだって。だからお鼻をほじった手で触られるのがいやなんだって。』（姉の気持ちを翻訳する）

弟『（手をじっと見ながら）洗ってくる！』

姉『私も！』



二人は洗面所へ走って行きました。しばらくすると、二人でゲームをしています。とても穏やかです。

子どものコミュニケーション能力の低下が問題になっています。親が子どもの気持ちをくんで言葉で確認することが、子どもが自分の欲求を再確認することになり、表現の仕方を学ぶ機会になるのです。更には対立を話し合いで解決する第一歩になるのでしょうか。

県内の相談場所

・ 家庭教育の悩みや不安について

白井市教育委員会教育部教育センター室	492-2301
県子どもと親のサポートセンター （障害のある・あるかもしれない子どもの養育や教育について）	0120-415-446
県総合教育センター特別支援教育部	043-227-1166

・ 養育上の悩みや非行・虐待などについて

白井市家庭児童相談室	497-3477
中央児童相談所（子ども家庭110番）	043-253-4101
社会福祉法人 千葉いのちの電話	043-227-3900

・ 子どもの非行などについて

千葉県警少年センター（ヤングテレホン）	0120-783497
---------------------	-------------